様式１

【鶴見区】令和６年第２回区づくり推進横浜市会議員会議　議事録

開催日時	６年　６月　１１日　　１１時１０分　～　１２時２０分
場　　所	鶴見区役所６階　８・９会議室
出 席 者	【座　　長】古谷靖彦 議員 【議　員：６名】井上さくら 議員、渡邊忠則 議員、尾崎太 議員、 山田一誠 議員、東みちよ 議員、柏原すぐる 議員 【鶴見区：25名】 渋谷治雄 区長、中村隆幸 副区長、市川裕章 福祉保健センター長、 黒川正人 福祉保健センター担当部長、山川博子 福祉保健センター医務担当部長、桐山大介 鶴見土木事務所長、川村滋 鶴見消防署長 ほか関係職員
議　　題	令和６年度鶴見区個性ある区づくり推進費の執行計画について
発 言 の 要　　旨	東 議員：震災のみならず風水害など様々な災害が予想される中、防災に関する普及啓発は大切であり、その中に乳幼児･妊産婦などの視点が盛り込まれていることはとても良いと思う。能登半島地震の際にも、妊産婦･乳幼児や高齢者などのケアに関して、支援者が少ないという課題が生じていると伺っている。こういった方々への支援者の確保については、何か計画しているか。 武 総務課長：妊産婦･乳幼児については、防災の講座を行いつつ防災訓練への参加を促していきたいと考えている。誰が支援するかについては、行政だけではできないので、地域の方も含めて主体的に参加していただきたいと考えている。支援者の確保については、今年度、新たな地震防災戦略を作成する中で、区局連携して検討していく。 東 議員：ケアが必要な方への計画を立てるうえで、女性目線の意見が反映されるように災害対策会議などへの女性の参加が望ましいと私たちも提案しているところだが、そのあたりの状況はどうか。 武 総務課長：区の災害対策本部では、女性職員も多く、引き続き女性の

	視点など様々な意見を取り入れていく。地域防災拠点の運営委員会においても、地域の女性の方が多く参加しており、引き続き訓練などの支援を行っていく。 東 議員：市の方でも会議への女性参加が３割に満たないと聞いているので、ある程度意識して取り入れるようにしてほしい。 東 議員：市では子宮頸がん対策として、新たな検診などを導入する予定となっている。そこで、若年層に向けての体の健康ということで予防啓発も必要となるかと思うが、具体的にはどのようなことを想定しているか。学校での出前授業なども含まれているのか。 藤牧 福祉保健課長：子宮頸がんは若年層からの啓発が大切であるため、今年度はまず小中学校の保護者向けの啓発を考えている。具体的には、小中学校のＰＴＡの代表として総会に参加する保護者などに向け、子宮頸がんワクチンや、がんの予防、がん検診による早期発見などについて伝えていくことを考えている。これを皮切りに今後どのように展開していくかを検討していく。特に子宮頸がんワクチンは小学校６年生から高校１年生までが対象となるので、そこに向けた啓発を図りたい。 東 議員：虐待予防事業でも小中学校での健康や妊娠についての教育ということが書かれていたので、子供自身が体のことを知る機会を若い頃から作ってもらい、将来の少子化対策に繋げることも意識していただければと思う。 齋藤 こども家庭支援課長：鶴見区では小中学生、主に中学校３年生のところに行き、性の話をさせてもらっている。まず、自らをどうやって大切にするか、嫌なものは嫌ということをどう発信するかというところが大きなテーマになっている。それが、大人になったときにも、ＤＶなどで当然のこととして「私は暴力を振るわれてはいけない」という意識を持つことに通じると考える。自分を守るための一番大きなところとして、２年度から中学生に性の話をしており、昨年度は６か所の中学校で実施した。今年度も希望のある学校に広げていこうと思っているので、先生方のご助言・ご意見などがあればお願いしたい。 東 議員：若年女性について産婦人科の先生たちと話す中で、相談窓口が少ないといったことを聞いているので、先ほどの中学生を対象とした講座のような様々な機会が、若年女性が自分の体の大切さということに気づく契機になればと思う。

	井上 議員：災害時要援護者支援の取組実践アイディア集というパンフレットは大変わかりやすくできていると思うが、要援護者の方に実際の訓練の場に参加してもらったり、支援する側の方が実際にどうやって援護するのか少しずつでもやってみたりすることが大事だと思う。自治会町内会に要援護者のリストは共有されたが、その先どう活用したらいいのかという戸惑いの声も聞いている。要援護者の取組についての決定は自治会町内会がするとしても、何が大変で何が壁となるのかということを把握し行政側と共有するために、訓練の場面では行政が主導して進めていけないか。 髙橋　高齢･障害支援課長：災害時要援護者支援については、実際に当事者の方と触れ合い、どのようなことに配慮が必要なのか、どんな準備が必要なのかということを知っていただきたいと考えている。既に、地域防災拠点によっては区域内のグループホームや、地域作業所の方などが参加しているところもあると聞いている。そういった状況を広げていくため、今年度は地域防災拠点の訓練時に時間をいただき、災害時における障害者への配慮等に関するミニ講座という形で実施することを計画している。あわせて、実際に当事者の方にも参加いただくよう働きかけていきたい。 井上 議員：災害時のペット対策ノートは、どれぐらい配布されるのか。カードになっているなど使いやすそうではあるが、やはり実際の訓練でペットを同行した避難ができるといいのではないかと思う。いかに大変なのか、実際にできるのかといった課題が出てくると思うが、そのあたりはどうか。 内田 生活衛生課長：実際にペットを連れた同行避難訓練をすることは大切なことだが、まず一歩目として今年度は一時飼育避難場所の設定を全ての地域防災拠点にお願いしている。そういう話合いの中で、各拠点で実際にペットを連れてこようという流れができるよう促していきたい。このパンフレットは、拠点訓練の中での同行避難の際はもちろん、それ以外の場でもペットの飼い主の方への配布を希望する自治会町内会にはお渡ししている。実際に書き込んでいただく中で、防災のときに何が必要なのかを飼い主ご本人に感じていただける作りとなっているので、機会をとらえて配布していきたい。 井上 議員：つるみＤＥ子育て応援事業では、今までにもガイドブックなどを鶴見独自で作ってきているが、一方で、局でも全市的に子育てに係

	るアプリやサイトで情報発信を始めている。これまで区で実施してきたことも、きちんとサイトに載せていくということではあるが、本来は局で予算を確保して進めるものではないか。また、子育て情報普及啓発事業にある地域資源の有効活用に向けた調査についても、やはり自主企画事業というよりは全市的にやることではないかと思うが、そのあたりの兼合いはどのようになっているのか。 斎藤 こども家庭支援課長：鶴見区がこども家庭センターのモデル区として出発するにあたり、課題となっている地域資源の開発についてうまく活用しながらやっていきたいと考えた。モデル区として決まったタイミングが遅かったため、局の予算の状況が見えない中で、まずは自主企画事業費で迅速に対応するという判断になった。現在、モデル区３区がこども家庭センター機能を有しており、今後の展開によっては局に予算を要求していくこととなると思う。ただ、こども家庭センター機能に限らず、地域資源をきちんと見ながら、なおかつ開発していくということは、区としての一つの課題だと認識している。 井上 議員：できなくなるよりはやった方がよかったことなので、タイミングの問題もあったということは理解した。地域資源や課題などについて区の方がきめ細かく把握できるため執行は区で行うというのは良いと思うが、予算については限られた自主企画事業費ではなく局予算を確保してほしい。常に言ってきたことだが、区が先行して実施し、それが市全体に広がったときには、ぜひ局の方できちんとやってもらえるようにお願いしたい。 渋谷 区長：市の重要施策を進める際に、区の特性などに基づいて区が分担することはあると思うが、財政が厳しい中でできるだけ効率的に進めるという意味で、実際の調査は状況をよく知っている区が中心となりながら、予算などの部分については局と調整して今後進めていきたい。 柏原 議員：放置自転車対策について、鶴見駅周辺の駐輪対策の過去の調査をみると、西口は駐輪可能な数よりも停めている数の方が多いという結果が出ているが、区の現状認識はどうなっているか。 中島 地域振興課長：ＪＲ鶴見駅西口付近には放置自転車が多かったが、整備を進めてきており、現在は西口で合計約 2000 台の駐輪場を構えることができた。放置自転車については若干減少傾向となっているので、引き続き監視業務を続けていく。特に、ＪＲ鶴見駅、京急鶴見駅の周辺

	で重点的に対策を進めていきたい。 柏原 議員：引き続き対策をお願いする。自転車に関しては、大人でも一方通行を逆送する方が結構多く、県警のパトロールもやっているようだが、啓発が必要かと思う。 柏原 議員：交通安全に関して、道路局ではビックデータや事故データ等を活用した対策に対して予算がついているが、区で実施の予定はあるか。 中島 地域振興課長：区で行う交通安全対策については、啓発事業が中心となっている。ほかには、各小学校に設置されたスクールゾーン対策協議会への支援などがある。 柏原 議員：ビッグデータの活用は局予算の事業かもしれないが、地域によって小学校の建替えなどで交通量が増えているところもあるので、重点的に対策を実施してほしい。 柏原 議員：自治会町内会振興事業に関して、市の中期計画でも自治会町内会の加入率は上げていこうとしているが、区の中でも自治会町内会によっては加入率が増えているところがあるのかなど、把握状況はどうか。 中島 地域振興課長：鶴見区の自治会町内会の加入率は 69.1％で、市全体では 10 位となっているが、自治会町内会ごとの加入率というのは把握していない。自治会町内会への加入率は、地域の担い手確保という意味で非常に大切なところなので、持続可能な地域活動に向け、加入促進のリーフレットの配付などで支援している。 柏原 議員：実態把握という意味では、濃淡の把握も重要かと思う。 柏原 議員：資料の最後にある、鶴見区に関連する主な局事業について、区の４年度の運営方針ではもう少し細かい記載だったかと思う。実際、いろいろな局事業があるかと思うが、鶴見区の住民から見たときには、統合された形で今の状況が示された方がいいのではないか。 中村 副区長：ご指摘の局事業の記載については、所管局と調整した上での表記となっている。もう少しわかりやすく、どこまで詳細に記載できるかについては、来年度以降の課題にさせていただければと思う。 柏原 議員：道路の街路樹に関して、例えばＪＲ鶴見駅西口の広場に鉢が３つあるが、枯れてしまっている。横浜みどり税などもあるので、そうしたものに使ったらよいのではと道路局長に尋ねたこともある。状況について、土木事務所では把握しているか。

	塚田　土木事務所副所長：東口、西口とも今年中に対応する予定となっている。 柏原　議員：2027 年には GREEN×EXPO 2027 があるが、ちょうど区制 100 周年の年でもあり、これらを掛け合わせて区民のお祭りでシール投票を行ったりしているのは認識している。例えば保土ケ谷区では、昨年度に 100 周年に向けたヒアリングを実施したり、実行委員会を立ち上げたりしており、機運醸成の取組による盛り上がりを感じる。鶴見区でも、豊岡町の複合施設再整備計画や、臨海部でのＡＧＣの 500 億円規模の投資などがあるので、100 周年に乗じてというわけではないが、しっかり全体としてのエリアの価値を上げるような取組をしたらどうか。 武　総務課長：鶴見区は 2027 年 10 月 1 日に区制 100 周年を迎える。これまでも鶴見区では、地域の企業・大学など区内で活動される多くの方々と連携をとりつつ事業を推進しているが、100 周年を迎えるにあたってもこうした繋がりを大切に生かし、一体となった賑わいづくりや気運醸成をしていきたいと考えている。その年に GREEN×EXPO 2027 も開催されるため、一体的にＰＲしていく絶好の機会として捉えたい。具体的な企画内容や推進体制は検討中だが、同時期に 100 周年を迎える神奈川区、中区、保土ケ谷区、磯子区、そして局とも連携しながら準備を進めていく。 柏原　議員：教育委員会で最近問題になっている、いじめ対策や学校での健康診断のあり方について、区ではどのくらい把握しているか。 児玉　学校連携・こども担当課長：いじめの件数や健康診断の状況というのは区では把握しておらず、教育委員会の方で把握している。 柏原　議員：鶴見駅東口ロータリーの、以前に起こった事故でガードが破損しているところについては、修復の予定はあるか。 塚田　土木事務所副所長：ガードパイプが抜けている部分について、修復を予定している。 山田　議員：乳幼児・妊産婦の防災対策について、局では課長級のワーキング等が行われているが、局から情報はおりてきているか。今後どういったことを予定しているのか。 武　総務課長：局からのガイドライン案を確認しており、区の現状や課題を局に伝えていく。また、ガイドラインの趣旨を踏まえて、地域防災拠点の連絡協議会において、乳幼児・妊産婦の方を考慮した訓練を行うよ

	う共有した。各地域防災拠点の訓練において、実際に乳幼児・妊産婦の方も参加するような実践的な訓練を行っていきたい。 山田 議員：鶴見区は他区と比較してペット防災の取組が進んでいると聞いている。乳幼児・妊産婦の防災の取組も、ペット防災のように他をリードしていく取組を期待している。 渡邊 議員：昨年度に地域防災拠点の備蓄庫の整理を行っているが、結果はどうだったか。 武 総務課長：令和５年９月から令和６年１月にかけて、全地域防災拠点31拠点において、備蓄庫の整理支援・棚卸を行うとともに、拠点運営委員に整理のポイントやノウハウ等のアドバイスを行った。拠点からは、備蓄庫のひっ迫状況が改善し必要な資機材が適正に配置されることで、今後の拠点運営や訓練に役立つようになったとの声を聞いている。引き続き拠点と連携して、備蓄庫を適切に維持管理できるように支援を行っていく。 渡邊 議員：地域によって違うとも思うが、備蓄庫が狭く、ハマッコトイレなどを体育館等の別の場所に保管し、保管場所がわからなくなってしまっている拠点もあると聞いたがどうか。 武 総務課長：備蓄庫の整理を行っていく中で、保管場所の確認を行っている。備蓄庫が標準面積に満たない拠点については、今年度局の予算にて簡易倉庫を設置する予定であり、現在、鶴見区では 14 か所の拠点と設置に向けて調整している。 渡邊 議員：生見尾踏切において４月 26 日に再び事故が発生したが、区は把握しているか。 中村 副区長： ４月 26 日金曜日の夜７時 45 分ごろ、生見尾踏切において、50 代の男性とＪＲ東海道線の上り列車が接触する事故が発生し、男性はお亡くなりになられたと報道等を通じて把握している。 渡邊 議員：まずはご冥福をお祈りしたいと思う。踏切の安全対策ということでは、第一に人命だと思っている。そういう中で、平成 25 年８月、令和４年 11 月、そして今回と、３名の尊い命が失われたことを非常に残念に思う。４年の事故の後に５年２月 17 日の本会議で市長から、「事故で亡くなられた方々にお悔やみを申し上げ、今回の事故を深く受け止め、同様の事故が起きないよう対策の実施に向けて取り組んでまいります」という答弁をいただいている。しかし、今回の事故が起きてしまい、

	抜本的な対策の実施に至っていないという現状は、何とか打開しなければならないと思う。様々な課題があり、また、道路局も非常に苦慮していることも承知しているが、今回のこの事故を区長はどのように受けとめているか伺いたい。 渋谷 区長：区長に就任して２年と少し経つが、その短い間で、一昨年の事故、それからこの前の４月の事故と、２名の尊い命が失われているということを、区長としてとても重く受けとめている。区民の皆さんの安全安心、人命最優先というのが基本的な思いであり、今回の事故も踏まえ、この観点でどのような安全対策をスピード感をもってできるのか、事業の主体となる道路局にしっかり働きかけるとともに、区としても地元調整含めてしっかり対応していきたい。 渡邊 議員：このような本当に痛ましい事故が二度と起こってはならない、という言葉を既に２回言っていることになる。一日も早い抜本的な対策を講じるよう、区としてもしっかりと道路局に伝えてもらいたい。 尾崎 議員：生見尾踏切については、緊急要望として抜本的な安全対策を道路局に求めており、当時の市長や道路局長も現場に来られ、議会でも相当な議論をして進めてきた。残念ながら報道に関しては、地域の総意かのような形で流れたテレビ報道について、地域でインタビューを受けた方からは、踏切の安全を述べた部分はテレビでは使われなかったということを聞くなど、地域を分断するような報道があったことは忘れられない。結局、ここまで抜本的な対策はできず、今年になってまた事故が起きてしまった。人命を最優先とする中で、これだけの時間が経ってしまい、どこに責任の所在があるのか、私自身にも腹立たしい思いである。 　また、市会の建築･都市整備･道路委員会において、MM地区で横断歩道を撤去する実証実験を行うという報告があった。実際にそこでどういう事故があったのかを聞くと、接触事故が数件起きたとのことだった。一方で、生見尾踏切の事故では３名の人命が失われているのに、何も動かない横浜市には本当に憤りを感じている。本当にしっかりと抜本的な安全対策をしなければいけないと、改めて思う。現実に人が亡くなっており、課題としてのステージが全然違うので、もっと区がしっかりと前面に出て地域と話し合う機会を設けるべきだと思うが、区長の所感を確認したい。 渋谷 区長：生見尾踏切の安全対策についての地域との話合いは、新型コ

	ロナ感染症の関係でかなり中断していたが、４年の事故を受けて５年８月に再開した。道路局が中心だが、区役所も入ってしっかりと対応している。先ほどの繰返しになるかもしれないが、区民の方々への対応や説明などは局だけでは十分にできないと思われるので、ご指摘のとおり区もしっかり入って対応を重ねることで、どうしたらスピード感をもって安全対策を進められるか、局と一緒に検討していきたい。 尾崎 議員：ぜひ、区もお願いしたい。地域の反応が厳しい状況も続いているようだが、これ以上人命が失われることがあってはいけないということが大前提なので、ぜひお願いしたい。 尾崎 議員：サムエル公園の整備については、地元として心から感謝を申し上げる。地域の皆さんも本当に喜んでおり、開園式についても楽しみつつ緊張しつつ、準備に取り組んでいる。災害時の機能など、公園のコンセプトも地域にご理解をいただいているので、この公園が地域の一つのキーになってほしいと思う。 尾崎 議員：災害時のペット対策ノートに関して、ペットの同行避難というのは、各地域防災拠点で認められているものなのか。 内田 生活衛生課長：地域防災拠点ではペットの同行避難は受け入れることが前提となる。ただ、アレルギーをお持ちの方や動物が苦手な方もいるので、どういった飼育環境とするかについては、各拠点で考えていただいている。 尾崎 議員：拠点の運営側がペットの同行避難について理解していない部分も見受けられるので、拠点に対しても丁寧な説明をお願いしたい。 古谷 議員：地域防災拠点は、避難所としての機能だけでなく、在宅避難者の食料や情報の提供などの役割があるが、拠点の役割が地域に十分に周知されていないのではないか。どのように周知しているのか。 武 総務課長：地域防災拠点は、おっしゃるとおり、そこに避難する方だけではなく、在宅避難する方などへの物品の供給や情報の提供を行う役割がある。周知については、広報よこはま区版やホームページ等に掲載しているが、引き続き続けていきたい。 古谷 議員：市が出している自宅避難を勧めるチラシがあるが、地域防災拠点の役割はほとんど書かれていなかった。このあたりの周知はやり過ぎても足りないことはないので、ぜひお願いしたい。 古谷 議員：保育園については、保育士が足りないという相談を何件も受

	けており、困った状況にある園が多いということを改めて実感している。いま、区内で定員に満たない保育園はどのくらいあるのか、まず伺いたい。 児玉 学校連携・こども担当課長：今の鶴見区の状況としては、553 人の定員割れとなっている。 古谷 議員：定員割れしている保育園数と、そのうち保育士が確保できずに定員割れをしている数はどうか。 児玉 学校連携・こども担当課長：施設数はすぐに出せず申し訳ないが、特段、保育士の不足により定員割れしているという報告は入っていない。ただ、おっしゃるとおり、４月以降保育士が不足しているというご相談は、いくつか受けている状況となっている。 古谷 議員：定員割れには２つの意味があり、保育士が足りなくて定員そのものを減らしているところも含まれると思う。ただ、これらは見えない状況になっていると思うので、そこもぜひカウントしてほしい。
備　　考	